

「受賞者の声」

テーマ「高度で専門的な技能の維持・継承」

副題「若年層のものづくり感性を養うための職業訓練について

—魔鏡製作を題材とした手仕上げ加工の試み—

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

近畿職業能力開発大学校附属

京都職業能力開発短期大学校 刈部 貴文

この度は、職業能力開発論文コンクールにおいて、中央職業能力開発協会会長賞という栄誉ある賞を頂き、誠にありがとうございました。このような機会を通して、職業訓練における技能の重要性を発信できたことに感謝いたします。また、論文作成にあたり、ご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

現代の産業界においては、技能継承問題や若年層のものづくり離れがより一層深刻化しています。この背景には、幼いころに培うべき「ものづくり経験」、「ものを壊す・分解する経験」が乏しいことが要因の一つと言われています。そのため、幼い頃の遊びを通じて自然に身につけていた「ものづくり感性」を培う機会が減少しています。いかに若年層に五感を使ったものづくり感性を養わせ、高度な技能の習得を目指した題材を検討した結果、日本古来の伝統技能である「魔鏡」に着目しました。本論文は、この魔鏡製作を通して、「手仕上げ加工」の技能の重要性、伝統技能の復元に成功した過程、学生達のものづくり感性の変化について述べています。

本研究は、(一社)実践教育訓練研究協会において毎年開催されている実践教育研究発表会(超精密分科会)で実践報告している内容を基にまとめたものです。「継続は力なり」と申しますが、長年蓄積してきた実験データやテーマの内容を掘り下げた取り組みを続けることで、受賞という評価をいただけたことに感謝いたします。

今後も、ものづくり啓発活動として、地域に向けたものづくり体験教室を立案・実施し、少しでも多くの若年技能者・技術者の卵を養成していきます。また、学生達に「技能継承」や「ものづくり感性」についての重要性を伝え、現場で即戦力となる実践技術者を輩出していきたいと考えます。